賑いの中心＝専門店街

中央ブロックのほぼ中央を、南北方向に約200の専門店が長さ530メートルにわたって対面して並び、その地下２階には高速鉄軌道プラットホームがつくられる。

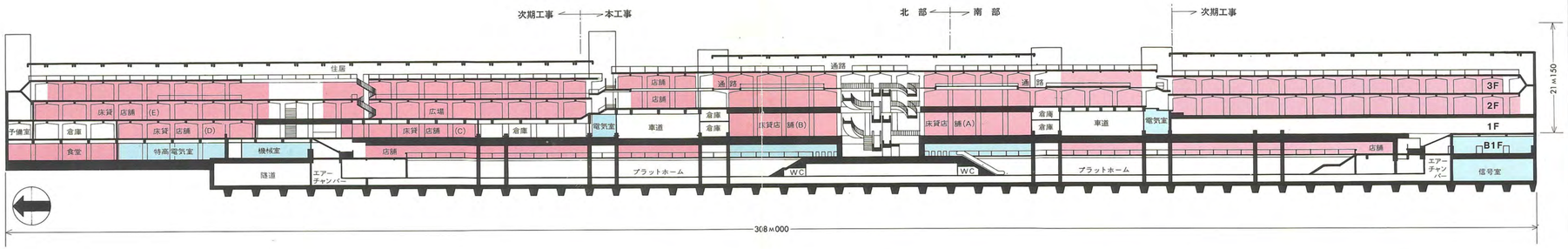
専門店街は、エレベーターおよびエスカレーターによって地下２階から地上４階まで連絡され、横方向には地下街とペデストリアンデッキによって東西２つの百貨店に結ばれる。したがってこの商店街は中央地区センターへ集まる人々を通す管であり、都市的賑いの中心となる。

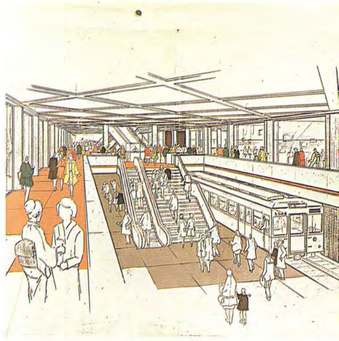
買物客はこの統一された景観をもつ専門店街で、ゆっくりと買物を楽しむことができる。

専門店規模

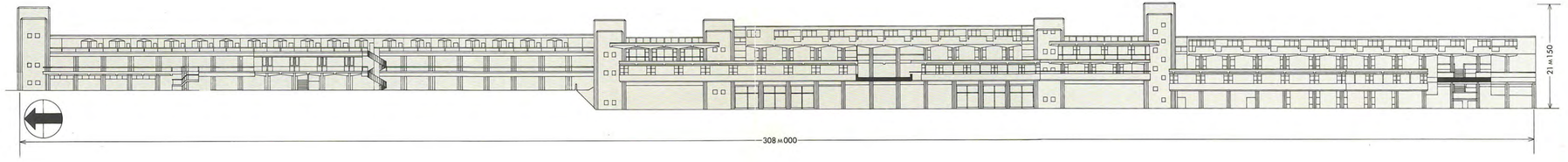
敷地面積	22,600m²
建築面積	8,000m²
建築延床面積	55,400m²
店舗数	約200
階数	地下２階、地上４階

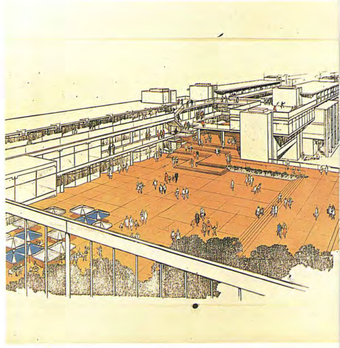
断面図





立面図





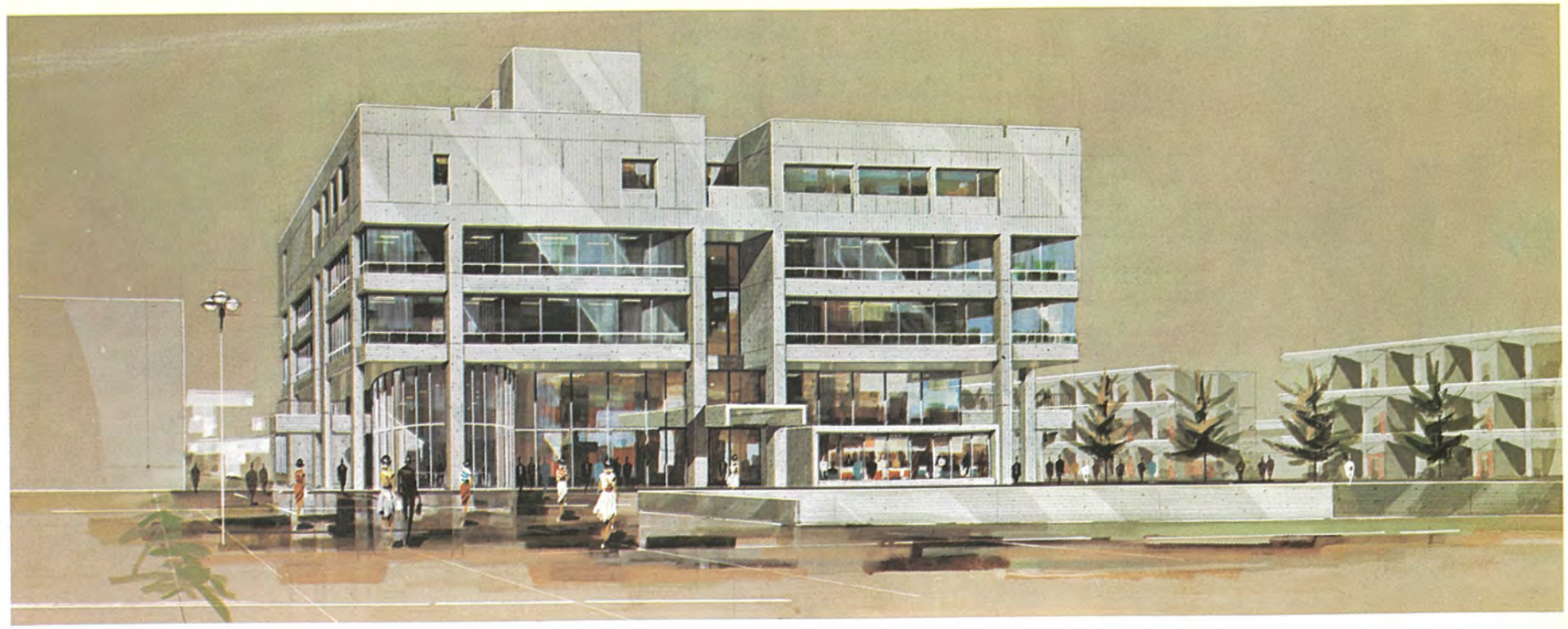
生活の中心＝センタービル

中央地区センターのセンタービルは、ニュータウン全体の管理機能を果すために、住民のサービス機関である開発センター、市役所、銀行、電気、瓦斯などの各種営業所を収容するほか、結婚式場、宴会場、各種事務所、借室などの施設があり、千里全体の市民生活のよりどころとなる。

またセンタービルは、この地区に計画されている公会堂や文化会館と共に一連のシビックセンターを形成して、単に千里ニュータウンに住む人々のためだけでなく、北大阪100万人の文化活動の中心として計画されている。

中央地区センタービル規模

敷地面積	7,100m²
建築面積	1,620m²
延床面積	7,000m²
階数	地下1階、地上4階
高さ	27.3m

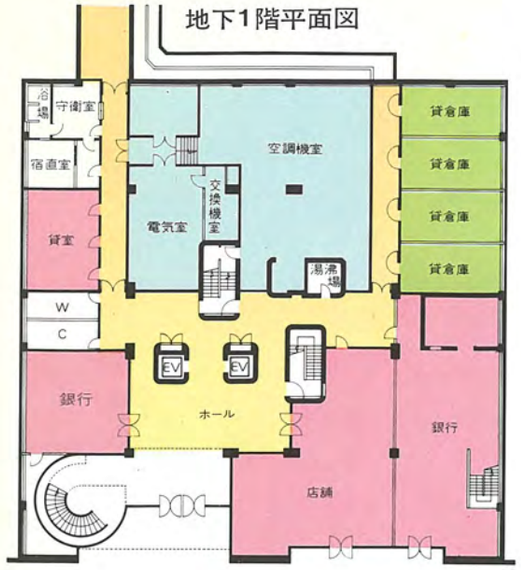








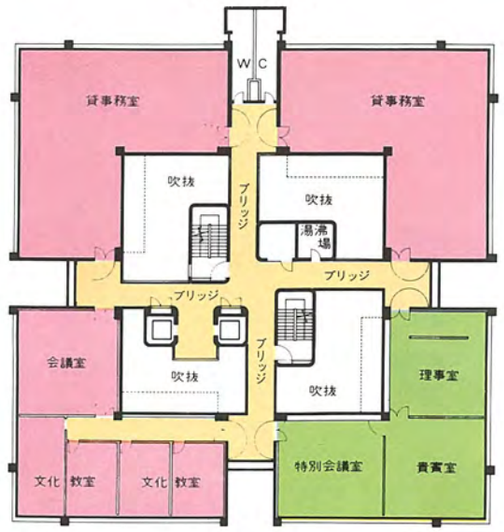
地下1階平面図



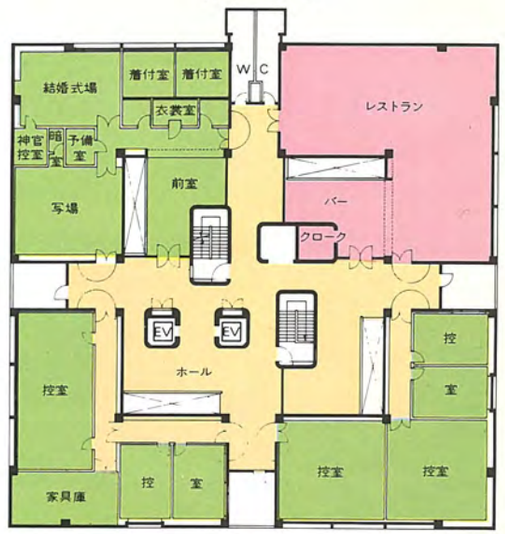
1階平面図



3階平面図



4階平面図





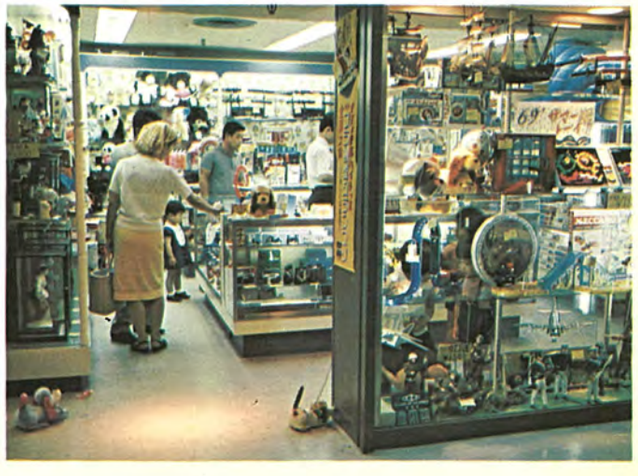












ショッピングの広場―百貨店

一般に家庭の消費は、日、週、月のサイクルに分けて考えられる。そして日単位の消費は主として歩行圏にある近隣センターで、週単位の消費は最寄駅を中心とする地区センターでみたすことができるが、月単位の消費は都心ターミナルの百貨店や繁華街に依存してきた。

しかし最近の自家用車の激増や、一般人口の郊外疎開という、いわゆるドーナツ化現象などにより、郊外にも百貨店の必要をきたしている。

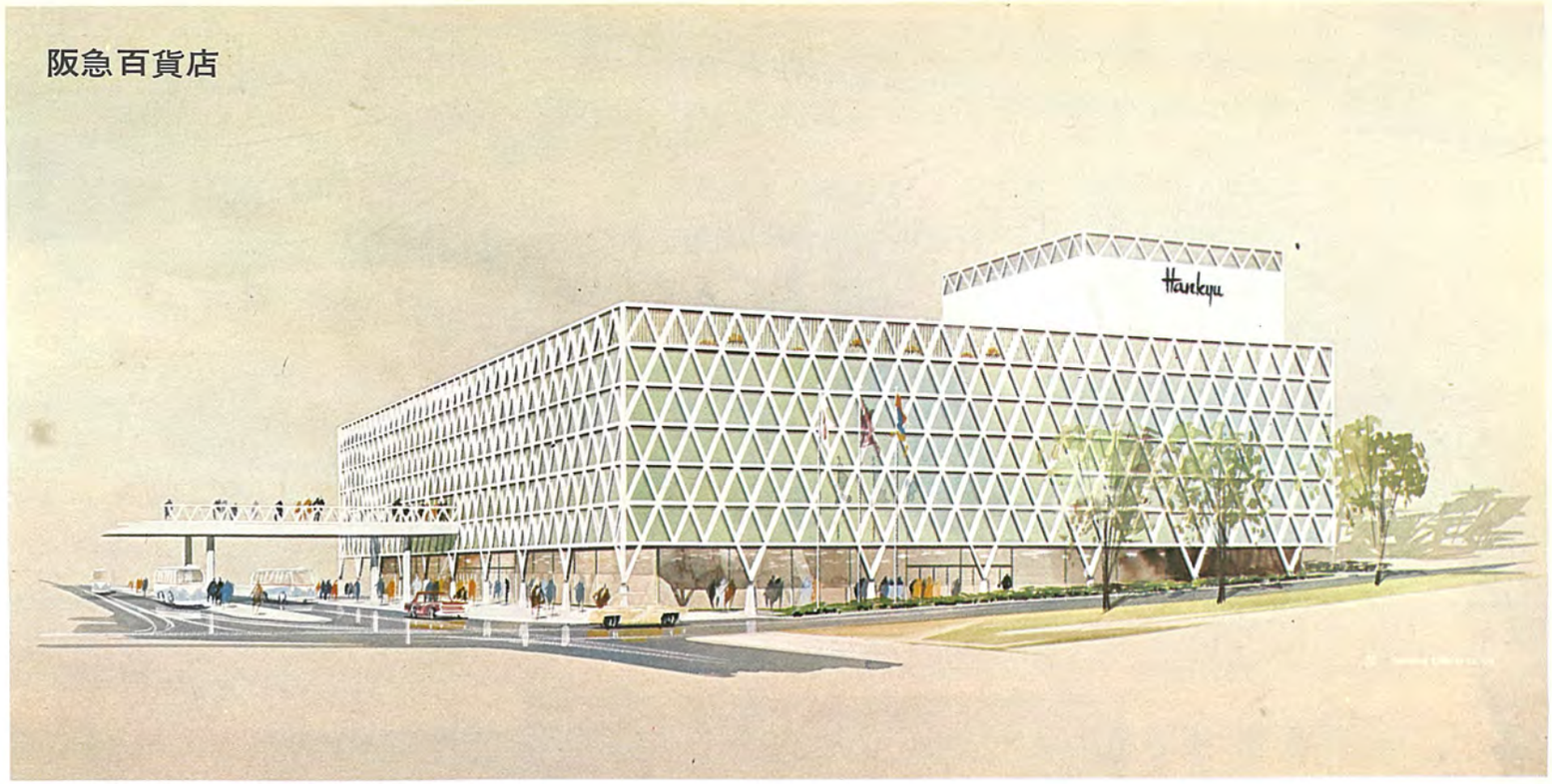
このような現象を背景に、15万人のニュータウン人口だけでなく、16バースの新バスルートや新設鉄軌道の設定などで誘致人口の拡大化をはかり、北大阪の影響圏100万人をバックにして、ここに2つの百貨店が計画されている。

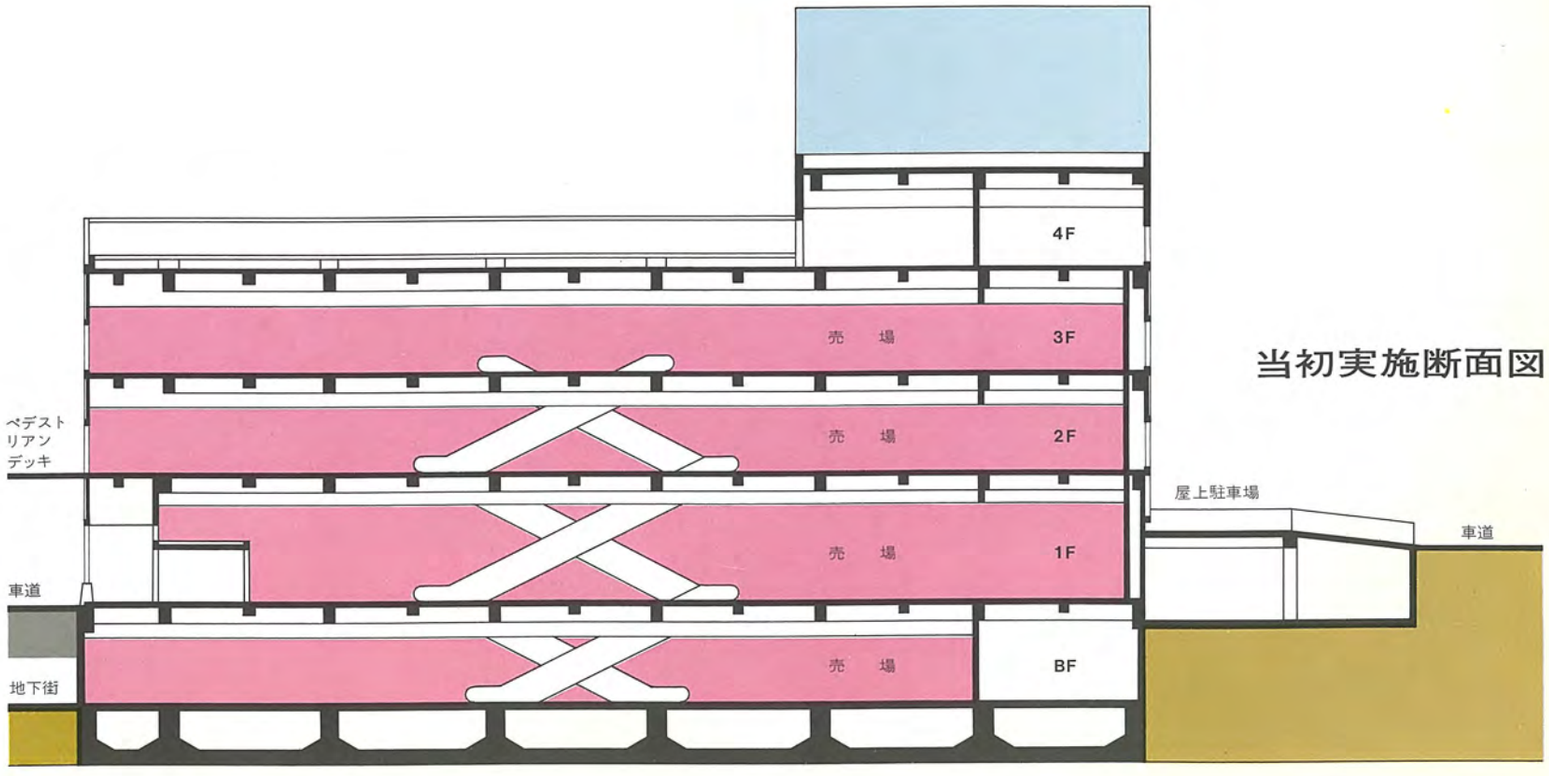
阪急百貨店建物規模

敷地面積　4,100m²

計画延床面積　18,800m²

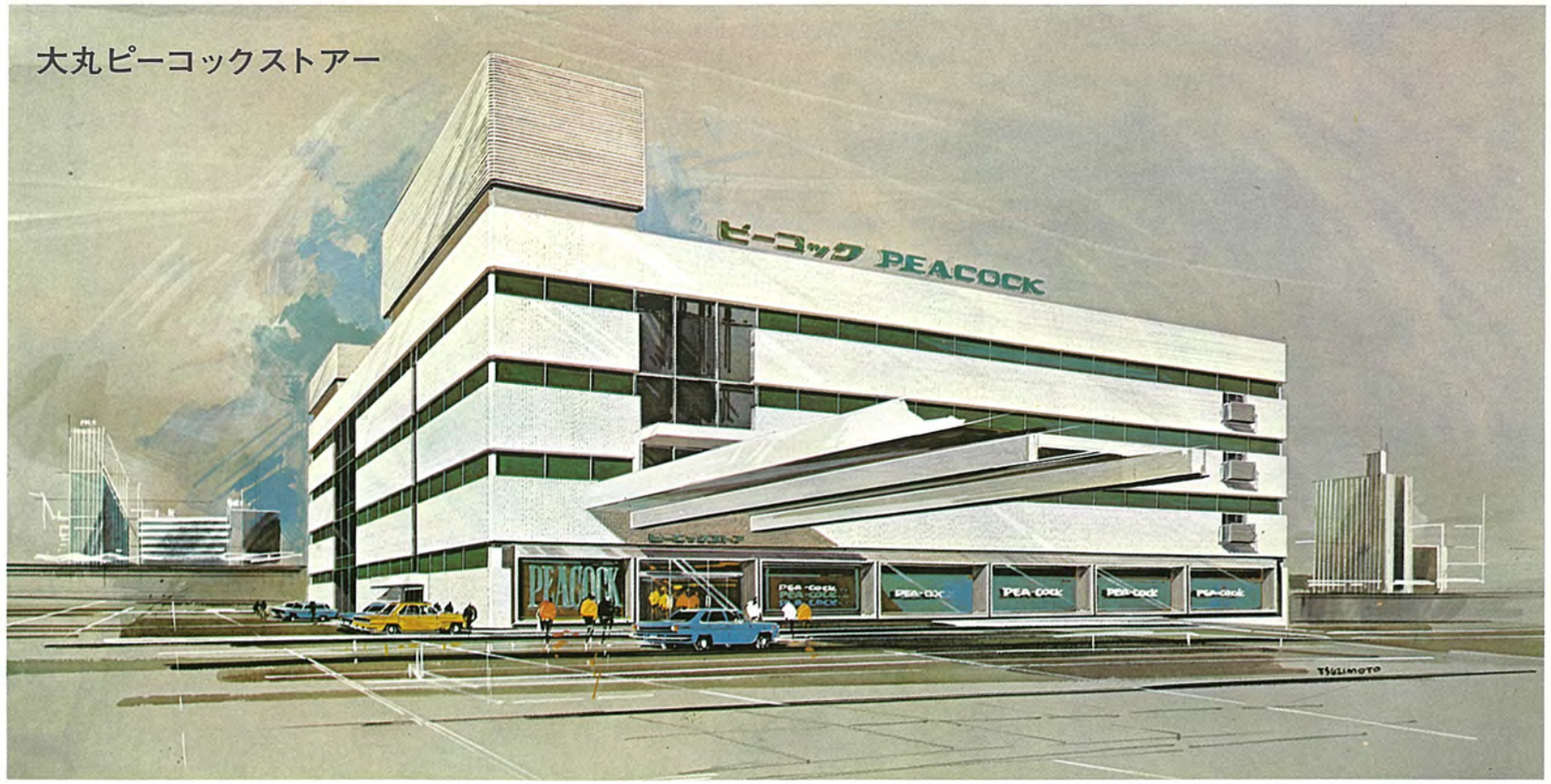






当初実施断面図

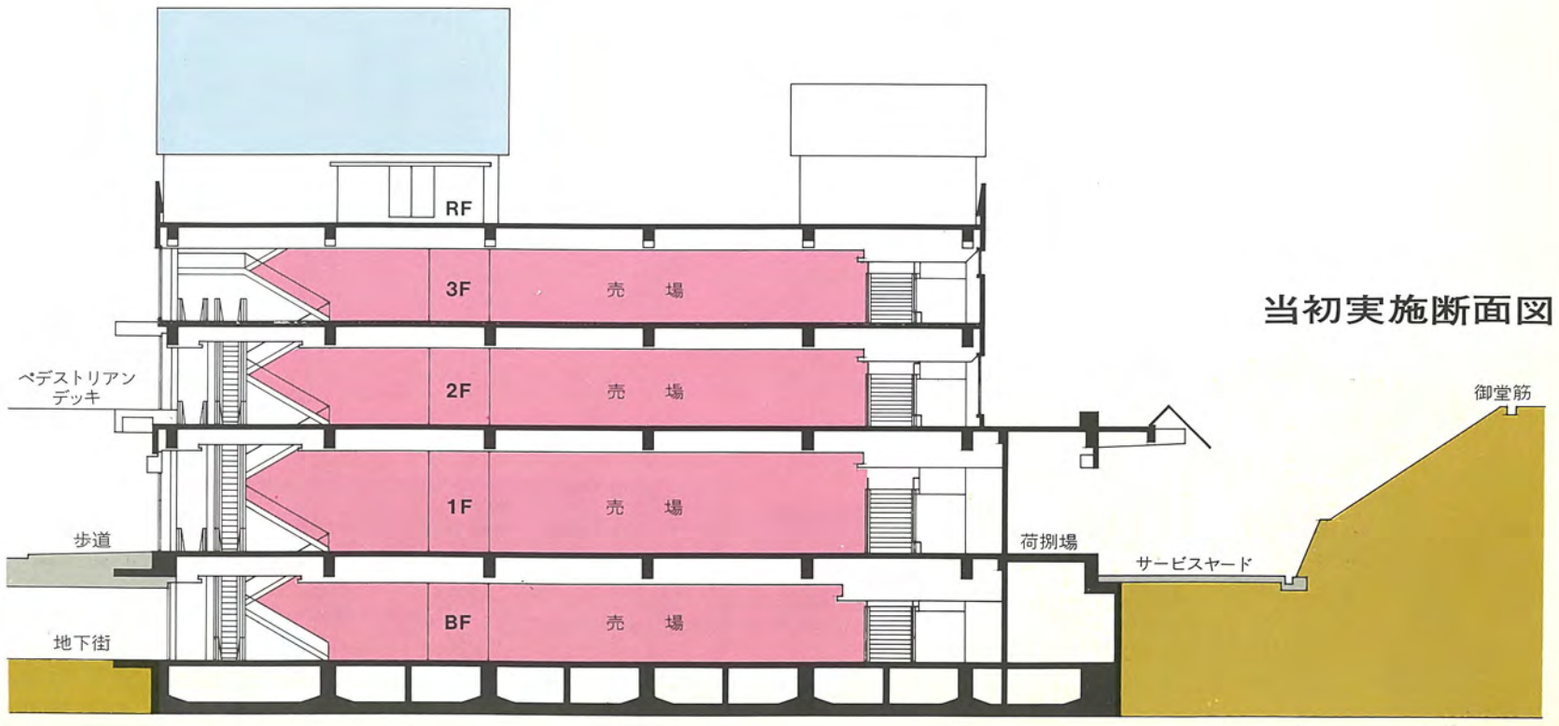




大丸ピーコック建物規模

敷 地 面 積	3,500m²
計画延床面積	8,300m²





当初実施断面図

憩いと安らぎ＝ホテル

ニュータウンの総建設戸数37,300戸の大部分を占めるアパート形成の住居は、まだ一般的には狭少であるので、訪問客のための宿泊施設が切望されている。

また、週末のリゾートホテルとしての要望も強い。

このほか、西ブロックの業務地区のため、あるいは新幹線や空港から僅か10分という地の利は、大阪都心の業務機能に附随するビジネスホテルとして非常に高い価値をもっている。

このような意味から、敷地内の駐車台数200台という点も利用して、ドライブインの機能を加味したエコノミカルなホテルがここに計画されている。



ホテル建物規模

敷地面積	18,400m²
延床面積	30,000m²





娯楽と教養═アミューズメントセンター

画一化の傾向をたどる現代の社会生活は、非人間的環境の中でアミューズメントに対する要望をさらに大きくしている。

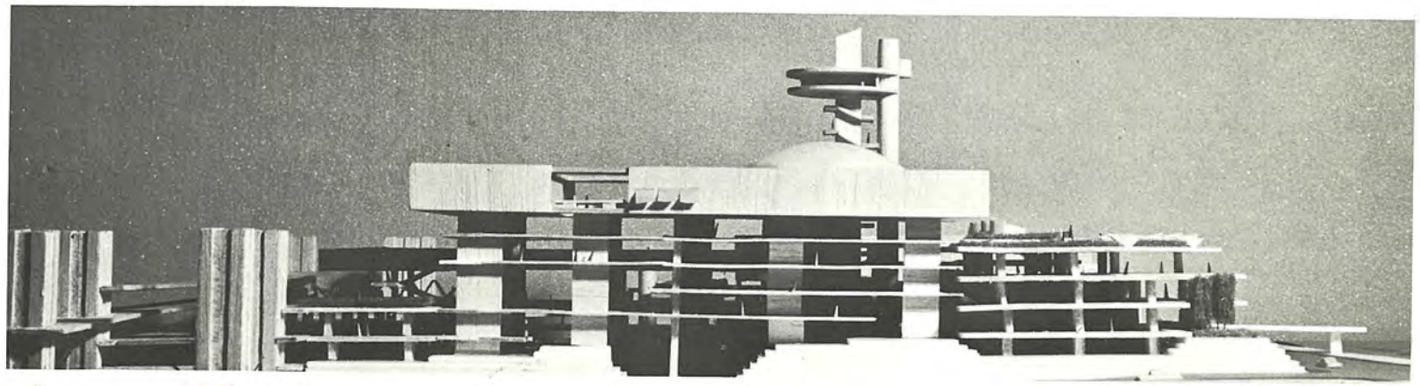
このアミューズメントは娯楽施設と教養施設にわけられ、娯楽施設には映画館、劇場、音楽堂、パチンコ、ゲームマシンなどの遊技場のほかに、打放しゴルフ、プール、スケート、ボーリングなどがある。

また教養施設には、一般社会人として日常の生活や業務に必要な諸講座を開催するほか、コンピューター、VTR、キャレル、テープなどを利用して、消費生活やオフィス業務のデーターをそろえて、図書室や情報コーナーに展示する。

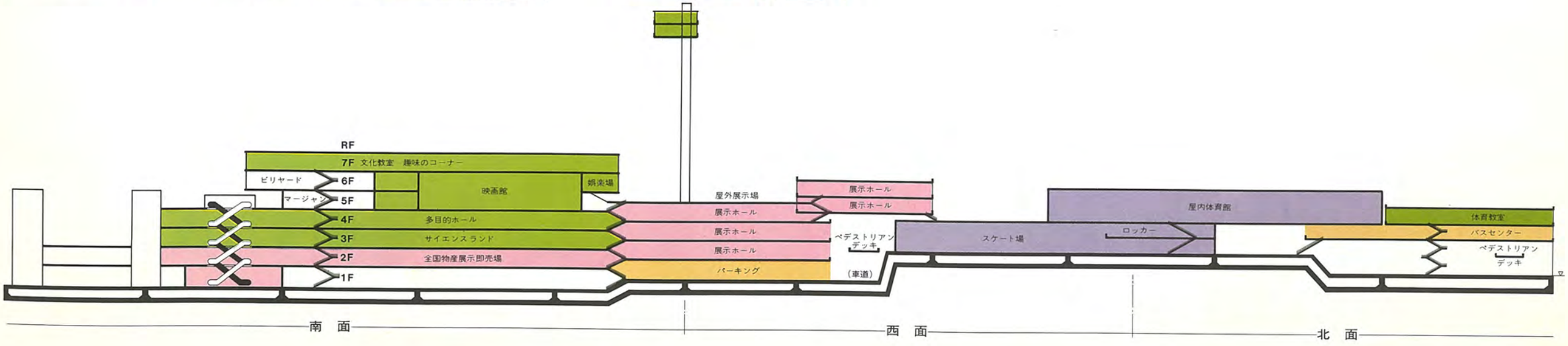
そして週休２日制も真近い我々の生活の中で、マンネリ化されたレジャーから一歩進んだアミューズメントのパノラマをここに展開する計画である。











働く明日のスペース＝業務地区

御堂筋線の高速道路あるいは高速鉄軌道に乗れば、梅田へは約20分、天王寺へは約35分であり、中央環状線を利用すれば大阪空港へは10分の近距離にある。

しかもニュータウンの豊かな生活環境としての諸施設すなわち広い道路、公園、広場、たのしいショッピングセンター、完備した供給管、将来の交通時代にふさわしい駐車場などはすべて業務地区の立地条件を充たす。

能率と合理性、快適と安全性にみちたこの10ヘクタールの土地を、媒煙とスモッグと交通混乱の中に働く35,000人のビジネスマンに提供したい。



















財団法人 千里開発センター　電話 千里(068)71-0391